

ケニヤに使用して (一)

—ケニヤの印象—



南 信 子

一、「ケニヤ国の招聘」

昨年七月、東アフリカ、ケニヤ国政府の招聘をうけ、ケニヤの幼児教育の指導という大任を与えられ約一か年彼の地に滞在いたしました。出発前まではケニヤについて何の知識もなく、ただ後進国といわれるアフリカのようなところで政府が幼児教育の振興に努力し、他国から助けを求めている事や、この計画が、アメリカのプレスビテリアン教会の婦人たちの祈りによって捧げられた献金で支えられようとしている事に深い感動を覚えてこの仕事に参加する決意をしたのでした。猛獣の出る国、未開人のすむ国、アフリカ人のすさまじい民族開放運動、気候風土の相違な

ど、その後得た知識は必ずしも私を使命と希望にかりたてるものではありませんでした。しかしケニヤ政府からのねんごろな招聘状、アメリカの婦人団体よりの感謝の手紙、日本キリスト教団海外伝道委員会や私の奉職する大学に関係する人々の激励をうけ、私はもし私にでもできる事があるなら喜んでほしいと願うようになったのであります。

二、「羽田からナイロビへ」

七月十三日午後二時、親しい人々に見送られて羽田を出発しました。香港、バンコック、カルカッタを経てボンベイに着いたのが夜の十二時、ボンベイで一泊して翌朝早くボンベイを発ちアデ

ンを経て十四日の午後三時にはケニヤ国の首都ナイロビに着きました。好天気に恵まれた快適な二十数時間の空の旅は、アフリカは遠い南のはてではなく、世界は狭いという実感をもつのに充分でありました。

機上から眺めた渺々たる洋上に浮かぶ綿のような白い雲の美しさや、静かで平和に見えた下界の町や自然の眺めは忘れられない印象として儼にやきついております。ナイロビの空港におり立った時、その初秋のようなさわやかな空気に旅の疲れがいやされる思いでありました。アフリカは皆いどころというのは、いつ、どこで得た知識であったのでしょうか。ケニヤは東部海岸をのぞいて殆ど五〇〇〇フィートから九〇〇〇フィートの高原にあるのです。そしてナイロビは何と美しい町でしょう。私のもっていたケニヤのイメージとは全く異っていたのです。ちり一つない町、町の中でも樹々が青々として花の色が目にしみるように美しいのです。世界の別荘地といわれるのももっともだと思います。ヨーロッパ文化の影響を適度にうけ明るい近代的な印象を受ける町です。ケニヤの人口八七〇万のうち三〇万はこのナイロビに住んでいます。ケニヤは殆ど黒人アフリカ人のすむ国と思っていた私には、空港に迎えて下さった人が皆白人であった事も大きな驚きでありました。ケニヤには約一%のヨーロッパ人、三%のインド人が住んでいるのです。

三、「Y・W・C・Aキリスト教女子青年会」

私のすまいはY・W・C・Aのフラットに用意されており、ここで一緒に仕事をするアメリカのレーパー夫人と住むことになりました。牧師の未亡人でナースリースクールの専門家でありましたが、六十五才といわれるのに私よりもはるかに若い感覚と能力と体力をもっておられるのは私にとって大きな驚きでありました。

Y・W・C・Aでの快適な生活が始まりました。台所には電気器具がととのっており随時お炊事ができ、客間、居間、お風呂場とすべて近代的な設備で朝九時にはアフリカ人の少女が掃除にきてくれるなど、私には想像もしなかった便利な生活で、食堂にはいつも定時にベルと共に豊かな食事が用意され、和気あいあいとした雰囲気の中で楽しい一時を過ごすことができます。Y・W・C・Aには世界各国からの旅行者が泊っています。田舎からナイロビに出て働いているアフリカの婦人たちもいます。ドイツの歴史家、フィンランドの若い婦人、アメリカからの老実業家夫妻と私はこの食堂でさまざまの人と出会い、語った数々、これまた忘れられない思い出であります。

四、「ケニヤの幼児教育施設」

(幼児教育施設をナースリースクールとよびます)

私共に托された幼児教育の指導は二つの方面から計画されておりました。一つはナイロビ市の郊外にあるY・W・C・Aのナースリースクールをモデルスクールにふさわしく改善し、ここで実習する十二人のY・W・C・Aの二か年の保育のコースの学生を指導するとともに、地方から選ばれてくる幼児教育の指導者を指導するという事であり、一つは地方を巡回して講座をひらき現地で幼児教育にたずさわる人々を直接指導するという事でありました。滞在一か年の間に私共二人でひらいた講座は十六回、集まった婦人は総計六〇〇人余でありました。講座の開講に先だって、私共二人は、全国にある幼児教育施設を見学いたしましたので、その印象を記してみたいと思います。

イ、「Y・W・C・Aナースリースクール」

このナースリースクールはナイロビのはずれ、アフリカ人街にあり、市からゆずり受けた建物を改造して二か月前から始められ、三十五人のアフリカ人の子どもと一人のヨーロッパ人の子どもに、教師養成大学を出た若い主任の他にY・W・C・A二か年のコースに学ぶ十二人の学生のうち六人が六か月交代でここに実習することになってきておりました。かわいい黒人の子どもたちは先生の指導によって非常に緊張した雰囲気の中で私たちへの歓迎をあらわしました。このナースリースクールはY・W・C・Aのイギリスの婦人たちによって指導され発足したものであります

が、子どもの指導やカリキュラムには今まで私が受けてきた教育と相当異なるものがあることを感じました。しつけの徹底していることは、子どもたちの忍耐深さにもなっており、感じられるように、日本の子どもたちにはどうも期待できないように感じられました。健康指導に非常に力がそそがれており、毎日二合のミルクにサンドイッチ、ビスケットが午前・午後二回与えられ、栄養価の高い給食がある事などは私の予想もなかった事でありました。

また、実習している学生たちが、給食の調理、配膳をいっさいひきうけ、子どもの身のまわりの世話をすることにすぐれた訓練を受けているのにも感心させられました。彼らはわずか八年の学校教育しか受けていないのでありますが、家事や子どもの世話をする事は両親からよくしつけられている事を知り、家庭教育のあり方についても日本の事情と思ひあわせ考えさせられました。全体に教育学・児童心理学・精神衛生・視聴覚教育などに関する学問による理論的な裏づけが弱いこと、及び教材の不足、遊具、玩具に乏しいことなど、経済的な問題に起因している面の指導工夫に一考を要することは、參觀一日で直感した事でありましたが、殆どの日をこのナースリースクールで働いた私の滞在一年を通じての大きな課題でもあったように思います。

このY・W・C・Aのナースリースクールは英国人とアフリカ人の委員によって組織されている委員会によって運営されています。

すので、私は絶えずこの委員の人たちと協力して仕事をいたしました。ケニヤ政府はここにモデルナースリーセンターをつくることを依頼したのであります。

ロ、「ケニヤ政府の監督下にあるナースリースクール」

政府はケニヤ国を地域別に区分し、地域ごとにセンターをおき職員をそこに配置し地域の発展に心をそそいでいます。ナースリースクールもこのセンターの仕事としてどの地域でも問題にとり上げられ、その発展に心が用いられております。しかし地域によっては非常に貧しく、何の設備もない泥でかためた小屋のようなところに、栄養不良や、皮膚病・眼病の子どもが全く放置されていたり、先生も無報酬で働いているといったケースも数多く見られました。しかしどこを訪問しても何という歓迎ぶりでしょう。

私たち二人の訪問をうけて集まってくるアフリカ人は嬉々として近より握手を求め、お茶や食事の接待をする様子は全く真情あふれ、心あたたまる思いがしたのです。

本当に他人に善意と好意をもつことのできる国民であると思いません。一時間程そこにとどまっていると、やがてそこを離れがたい思いがする人たちであります。初めは緊張している子どもたちもやがてまわりにむらがつて歓迎のよろこびをあらわしてくれるのです。せいっぱいの歌をうたい、踊ってみせてくれました。

私は目の悪い腫物のいっばいできた子どもが私にまつわりつき

握手を求めてきた時、自らの愛情の乏しさに胸つまる思いがしたのです。地に足をつけ、心いっばいの仕事をしなければならぬ事を強く感じさせられました。

ハ、「ナイロビ市立ナースリースクール」

ナイロビ市にはヨーロッパ人が指導し、おもにヨーロッパ人の為に発足したナースリースクールが相当数あります。保育料も高いが設備もよく数年前まではアフリカ人の子どもは殆どいなかったようでありますが、最近では各国の子どもが入っており国際的な雰囲気ではほほえましいものがあります。英語で英国式の教育を受けています。どのナースリースクールも広い美しい芝生の庭をもっているのは羨ましい限りです。また、ナイロビの周辺には最近たくさん市の市立のアフリカ人の子どもたちの為のナースリースクールもでき設備も徐々にとのえられつつあります。二度ナイロビ市から依頼をうけ先生たちの為の講演にまいりましたが皆非常に熱心であることを感じました。

五、「独立」

私のケニヤ滞在中の大きなでき事は、何ととってもケニヤ国が昨年十二月十二日に独立したという事でありました。多くのヨーロッパ人は暴動をおそれて式典には出席しなかつたようでありますが、私は三〇万のアフリカの民衆とともに式典に参列し深い

感銘を受けました。一八九五年以来英国の支配下に国民はさまざまのいがい悲しみや苦しみを経験したようであります。教育を受けた人が少なく、自治能力がないという理由で政治にも参与できず、商業機構は殆どインド人に牛耳られ、重要なポストはヨーロッパ人によってしめられるなど彼らは自らの無能と無知と戦わざるを得なかったのであります。しかし民族解放運動は早くも一九二〇年におこり一九五二年にはモウモウ団で知られるテロ活動がおこるなど、はげしい反英闘争をつげ多くの犠牲者を出し漸く獨立にこぎつけたのでした。しかし獨立したとはいうものの多くの困難な問題に直面しています。彼らには白人優秀黑人劣等という過去にゆがめられた人間性の回復が必要であり獨立後も複雑な多入種国家として、ケニヤに定着するヨーロッパ人やインド人たちと人種民族をこえて、共に協力して繁栄の道をきりひらいてゆかねばならないのです。またどの方面にも指導者の少ない事は大きな悩みであり生活の貧しさは耐えがたい苦しみであります。しかし滞在一か年を通じて、私はこの国のはげしい歴史の動き、すさまじい民族解放運動の前進、民衆のより高い生活への意欲、教育や新しい文化の創造への情熱に目をみはる思いがしたのです。

六、「国歌の制定」

ケニヤは子どもの事を忘れない国であると思います。その一例

として、ケニヤの国歌制定にまつわる次のような話があります。

国歌の制定にあたって、人々の思いはアフリカ特有の伝統的な母親にも子どもにもなじみのあるメロデーを国歌におこみたいという事になりました。五人の音楽指導者たちによってその為に地方から三つのメロデーが選ばれました。獨立を前にした或る一日、音楽隊の演奏によってこの三つのメロデーが演奏され、首相ジョモ・ケニヤッタ氏初め政府の閣僚が集まり、その中より一つを国歌として選ぶことになりました。三つのメロデーが幾度か演奏されましたがその中より一つを選ぶ事は非常に困難であつたようです。その時首相ケニヤッタ氏はその場所に見物に集つてきていた六〇〇人の子どもたちに自分たちで選ぶように訴えたのであります。そして期せずして子どもたちの手が上つたのがこの国歌に制定されたメロデーであつたのです。

私はケニヤがいつまでも子どもたちの事を忘れずに政治をすずめてくれる事を祈りたい気持ちです。また、獨立祭の式典において最初に聖書ローマ書の十三章がよまれ祈禱が捧げられた時、民衆は水を打ったように静かでした。はげしい民族解放運動で戦つたあの民衆にあの敬虔な祈りの姿勢がいつまでもつづくことをはるかに祈りたいのです。

(北陸学院短期大学)